

委員会議事録（概要版）

会議名：平成30年度 小浜市地下水利活用・保全検討委員会 第1回委員会

日時：平成30年6月27日（水） 15:30～17:10

会場：市庁舎4階 大会議室

出席者：委員16名（全21名委員名簿参照）、日本工営2名、事務局3名、小浜土木事務所1名、農林水産課1名、商工観光課1名

（議事内容）

○協議事項について

（1）提言書の全体構成について

- ・ 図表による説明やコラム記事の挿入を多くしつつ、内容を深く知りたい場合にも読み込むことと対応できる程度での文章は記載する方向で、提言内容の再検討と修正を進める。
- ・ 事務局案の「はじめに」「基本理念」および行動メニューに関して、小浜の特徴や小浜らしさの記述が少ないので、その部分を再考するとともに、「現状と課題」の説明文を追加する。

（2）提言書の重点プロジェクトについて

- ・ 地下水保全の重点プロジェクトとして条例制定を求める意見が多いことを踏まえ、条例制定の可能性に関して引き続き検討する。
- ・ 3つのテーマで最低1つの実現性の高い重点プロジェクトを設定し、その代表重点プロジェクトは確実な実践を提言で求めることとする。
- ・ 当面の代表重点プロジェクトは以下とする。→保全＝消雪装置の節水対策、利活用＝道の駅の親水公園整備、調査教育＝学校教育もしくは地下水イベント。
- ・ 分科会で出されたアイデアを全部掲載するか、実現性などの視点で絞り込みもしくは統合整理を行うか、引き続き検討する。

（3）提言書作成スケジュールおよびワーキング会議について

- ・ 代表重点プロジェクトを具体化するためのワーキング会議を設置し、そこで検討する。ワーキング会議への参加者は全委員とはせず、有志での参加者を募り運営する。

（4）提言のスローガンについて

- ・ 出された案の中からアンケートを実施して絞り込み、その結果を基に次回委員会で議論して最終的なスローガンを決定する。

（5）その他

- ・ 提言を出した後のフォローアップを適切に行えるよう、関係部署を含めた検討を事務局側で進める。

○協議事項について

1. 提言書の全体構成について

発言者	内容
大村委員	<p>3つのテーマのうち「地下水を学び伝える」が一番基本のテーマである。この基本テーマの中に地下水を大切に使う方法や上手に使う方法が含まれるという位置づけが望ましい。正しい、正確な地下水の情報を早く市民に教える、伝えるという取り組みが重要である。</p>
事務局	<p>3つのテーマの関連性ということでは、「学び伝える」が「大切に使う」と「上手に使う」を支える、根底部分に位置づけられるという認識でいる。そういった位置関係を概念図案で表現しようとしている。</p>
岡委員	<p>構成という面では、大局的にはこのような形で落ち着いていくと思う。まとめ方という点に関しては、図や表をふんだんに取り入れて一般市民にも馴染みやすい提言書にすることを心がけてもらいたい。単に文章を削ると言っている訳ではなく、図や表、キーワードといった部分を通じて読み手が関心を持った時に、その具体的な解説の文章も付いていてそれを読めば深く理解してゆけるという構成が望ましい。</p>
会長	<p>文章主体だとメリハリが付かない提言になりかねないので、図表やコラム記事を入れてわかりやすくするとともに、かつ流れがはっきりわかるような構成で仕上げたい。また、市民にエッセンスを理解してもらうためにダイジェスト版を作することを予定しているが、どのような方針でいるか。</p>
事務局	<p>黒部市で作っている両面カラーのチラシがわかりやすい資料の一例と見なしており、提言書がまとまった後に、事務局中心に黒部市の資料を参考にして概要版の作成を行っていきたい。</p>
西尾委員	<p>チラシを作って配るのもよいが、一度見てそのままゴミと化してしまう可能性が大きく、別のPR手段を考えないといけな。小浜の至る所に地下水がどうなっているのかを説明する掲示板を作らないといけな。市役所や学校、公共施設などに地下水をわかりやすく解説する掲示板の設置が必要。</p>
西尾委員	<p>地下水保全策の1つに掲げられている冬水田んぼに関して、昔は稲刈りの後にも田起こしをやっていたが今は秋の田起こしをほとんど行っていない。水田に水を張る期間が1年に3ヵ月程度に留まっている中で冬だけに水張りをしてもあまり意味はなく、秋から冬にかけて水を入りやすくする行動を推進していくことが大切である。コウノトリを定着させることにも効果があるはず。</p>
事務局	<p>確かに水田の水張りを冬場に限定する必要はなく、表現方法を見直すなどして今の意見を取り入れていきたい。</p>

谷口会長	<p>今の意見にあった、昔は秋にも田起こしをやっていたことを提言の中で文章化し、地下水にとってプラスになる行動を復活させる契機となるよう考えていただきたい。</p>
岡委員	<p>「はじめに」の部分に関して、何故小浜の地下水が豊かなのか、小浜の地下水の特色がどういった所なのかについて述べていない。小浜の地下水の素晴らしさをアピールするためにも、書き込むことで再検討してもらいたい。たとえば、断層の沈降帯に分厚く未固結層が溜まっているとか、黒部川などに比べて小規模な川の下流平野にも関わらず通年で被圧帯が見られるとか、いろいろあると思う。小浜が地下水環境的に恵まれていることをアピールする内容にしたい。</p>
橋本（長）委員	<p>熊本の提言には、熊本の地下水の課題というページで地下水位の低下や汚染実態といった現状の課題が述べてある。このような、なぜ地下水を守る提言が必要かという経緯や課題を述べることも必要だが、小浜の地下水の姿や特徴にも触れておくと、その豊かな地下水を守ることの重要性、いわゆる提言の主旨がわかりやすくなる。小浜の地下水の特色、そして提言を通じて地下水を守ることの重要性をもう少し膨らませるとよい。具体的な行動メニューについては、先ほど西尾委員が指摘したような小浜独特の風土を生かしたメニューをもう少し増やせると、小浜らしさを前面に出した提言に仕上がると思う。</p>
事務局	<p>「はじめに」の後に小浜の現状および課題といった項目を追加し、各委員から指摘があったような内容を記載するといった方向で再検討する。</p>
岡委員	<p>ただ、課題を丁寧に記すとなると前段の地下水調査が始まった経緯にも触れることになり、政治的に微妙な所もあることから、慎重に考えた方がよいのではないか。いろいろな意見が出て収拾がつかなくなる恐れがある。</p>
大村委員	<p>熊本のケースでも、提言をとりまとめるまでに相当の年月がかかっている。地下水を守る側の意見だけではなく、地下水をもっと使いたいという意見も多かった。いろいろな意見を持った市民や利害者がいるのが事実であり、そういった中で合意形成を図るのは容易なことではない。さらに、この委員会は地下水のことを検討するために作られた組織（任意団体）であって小浜市そのものの組織ではないことを踏まえておく必要がある。</p>
宇田川委員	<p>3つのテーマのうち保全を一番重視したいと考えており、目に見えて効果が上がる節水を中心にできるだけ速やかに行動を進めることを提言で求めている。そういった思いの中で、委員会のメンバーである私たち、あるいは市民が地下水を守っていく強い意志が今の提言案には感じられない。どのようにして地下水を守り抜くかの具体性や思い入れのようなものが不足していると思う。</p>

会長	具体的には、「基本理念」の所でもう少し保全に対する意思といったものを表明するといった意見と捉えてよいか。
宇田川委員	それでよい。地下水利用の規制をもっと前面に出して地下水をどのように引き継ぐかを明確にしないと、守りきれないように感じられる。

2. 提言書の重点プロジェクトについて

発言者	内容
竹内委員	宇田川委員の発言と関連するが、地下水の収支が今は保たれている。そのバランス状態をいかに継続していくかが重要な課題となる。その課題に対しては条例を作って直接守っていく方針が必要と考える。事務局で条例案を考えていただき委員会に提示することはできないだろうか。また、多くの行動メニューを考え出している状況だが、提言を受け取った市がその全部をすぐに取り組めるとは考えにくく、優先的に進めて欲しいメニューを決めて示していくべき。
大村委員	福井市が地盤沈下を沈静化するために井戸を規制する条例を作ったが、条例制定後に税収が減ったり、企業が規制区域外に移って結局郊外の地下水を消費する状態にしてしまったなどの弊害を生じてしまった経緯があり、条例での規制が一律に奏功するとは限らない。強制するのではなくソフト対策で穏便に地下水利用を少なくする、そのようなスタンスで取り組むことも重要だという意見も出ていた。
会長	今日の提言案に示されている重点プロジェクト案は、あくまで事務局で考えている案である。これまでの委員会、分科会での議論をベースにしているが、事務局の考える重点プロジェクト案と各委員が考える重点プロジェクト案、優先して進めて欲しい行動メニューとの間に隔たりがないか、意見を求めたい。
岡委員	分科会では様々な意見やアイデアが出されたが、素人の思いつきで考え出した意見、実現性が乏しい意見も含まれている可能性がある。事務局側で対策の効果やコストなどを考慮して実現性をもう少し検討し、あまりにも非現実的な意見は提言に載せないということを考えなくてよいか。効果の確認という所では、一部のメニューに対して行っている地下水シミュレーション結果に基づく判断も有効である。ただし、実現性が低いような意見であっても象徴という位置づけで採用するのなら、それは理解できなくもない。
岡委員	条例に関して、賛成反対の両方の立場があるのはよくわかる。その状況は別にして、地下水を適正に使う仕組みづくり、悪用されない仕組みづくりとしての条例化は必要。地下水調査の結果が地下水の悪用に利用される懸念があるという理由で非公表になっているのは問題とされていて、そのような情報公開の制限が行われないようにするためにも条例制定を求める方向で進めたい。

竹内委員	<p>今はなんとか保たれている地下水の水収支を条例で規制して今後も保っていく、その上で余裕が生まれたら利活用を行うというのが基本だと考える。利活用が先に来るのはあってはならないことで、その意味でも保全のための事前の条例化、条例による相応の規制は必要。どの程度の地下水水収支バランス変化が許容されるかは、専門家による検討や判断を参考にしていけばよい。</p>
副会長	<p>多くの意見が出てきた中で、行動メニューを羅列するだけではなかなか次の段階に移行できないというのは確かで、やはり絞り込むことも必要である。その絞り込み、あるいは重点プロジェクトの抽出にあたって、大きな効果が期待できるメニューを選ぶ、象徴的なメニューを選ぶ、いろいろな考え方があるので議論をしていけばよい。たとえば、淡水魚の養殖は相当量の地下水を消費することになるので実現するのは難しいと考える。</p>
会長	<p>今の事務局案には、実現性が高いもの、象徴的なもの、やや難しそうなのそれぞれ混在しているようなので、実現性に主眼を置いて重点プロジェクトを検討し、3つのテーマ毎に最低1つはこの委員会で合意できるような実現性の高い重点プロジェクトを盛り込むようにして提言を作成すれば、具体性を持った提言として充実度が高まるものとする。</p> <p>岡委員から提案のあった道の駅の親水公園案は、テーマ2：利活用での実現性の高い重点プロジェクトに位置づけられそうである。テーマ1：保全に関しては、消雪装置の節水策を取り上げることとし、道路施設管理者である小浜土木事務所側で検討を進めていただけないか。テーマ3：調査・教育・情報共有に関しては、学校教育や情報発信を目的としたイベントを切り口に馬場委員が中心となって重点プロジェクトを検討していただけないか。</p>
馬場委員	<p>了解した。</p>
会長	<p>重点プロジェクトとして挙げる全てのメニューを実践することにはこだわらず、テーマ毎に少なくとも1つの重点プロジェクトは確実な実践を働きかけるような方向で、引き続き提言内容を議論することで進めたい。次の委員会での議論で実践を求める重点プロジェクトがさらに増えるようなら、それはそれで構わない。</p>
岡委員	<p>消雪装置の改良というメニューは是非具体的に取り組んでいただきたい内容である。福井県内でも小浜市域で先駆的に取り組んでいるような状態が作れると象徴的な位置づけになってよい。その時に、どのくらいの地下水が節水できるか、できたかについて具体化していただけるとありがたい。</p>
橋本（泰）委員	<p>どのくらいの節水が可能かも含め、重点プロジェクトとしての具体案を検討していくようにしたい。</p>

岡委員	消雪用途での地下水の利用実態の「見える化」についても合わせて検討していただきたい。消雪装置の稼動と地下水の状態がどのような関係になっているかを市民に自覚してもらうためにも必要と考える。消雪での使い方自体をモニタリングするのではなく、地下水の動き方をモニタリングするという目的で。
会長	電気を使うと温暖化指標が動く様子がすぐわかるような、そのような情報提供は重要である。技術的にも可能と思われるので、消雪節水策とともに検討を進めていただきたい。
岡委員	そのモニタリングデータが市のホームページで公開されるとよい。
宇田川委員	被圧地下水の水圧がモニタリングできるとよい。
会長	テーマ2の実現性の高いプロジェクトである親水公園案について、提案者の岡委員から補足説明をお願いしたい。
岡委員	測量や計測などを行った結果、自噴の水で湧水池や水汲み場を作ることはできそうであると判断し、CGの絵姿を描いてみた。
会長	道の駅の近くに親水公園を作るとなると主に観光客向けの施設、行動メニューということになるが、市民に向けた行動ということにもなるか。
副会長	観光客向け、市民向けのどちらにもなり得ると思う。道の駅と同じように四谷公園の自噴を湧水公園として改造する絵姿を検討できないか。
岡委員	四谷公園の場合は、排水側溝や公園そのものに手を加えていくことが必要と考えられ、道の駅のように片手間で作ることは難しい。ただし、豊富な地下水が存在する小浜平野の象徴的な湧水として整備、活用することは非常に有効であり、四谷公園もなんらかの重点プロジェクトに加えてもよいのでは。
会長	四谷公園の活用方法については事務局でも検討を進めていただきたい。また、テーマ3での重点プロジェクトの検討も馬場委員と連携して進めていくことをお願いする。

3. 提言書作成スケジュールおよびワーキング会議について

発言者	内容
事務局	次の委員会は8月頃に開催を予定している。その時に提言書内容を詰めていくことになるが、とくに重点プロジェクトの具体的内容を事前に話し合うことを目的に、ワーキンググループを作ってそこで協議していくことを提案したい。ワーキンググループのメンバーは全員参加ではなく、委員の中から有志を募って運営することとしたいが、それで構わないか。
各委員	(異議なし)

4. 提言のスローガンについて

発言者	内容
事務局	事務局で考案した3つのスローガン案について説明。
会長	欠席の小坂委員から出されたスローガン案を紹介。
各委員	西尾委員、馬場委員、宇田川委員、上田委員、竹内委員より、各自のスローガン案について紹介および補足説明。
事務局	多くの案が寄せられたので、候補を絞り込むためのアンケートを実施し、投票の多かった案を次回委員会で議論して採用スローガンを決める形で進めたい。
各委員	(異議なし)

5. その他

発言者	内容
西尾委員	市長に提言を行った後の市としての対応は、どのように考えているか。提言を踏まえての具体的な行動が起こされないようでは、この委員会での議論が実らないことになる。
岡委員	上下水道課で水道ビジョン改訂の動きが始まっているようだが、そちらでの検討に引き継がれるのとよいのではないか。本委員会のメンバーの一部が参加できると望ましい。
事務局	頂戴した意見を参考に、提言を出した後のフォローアップの体制やあり方について、事務局内での検討や関係部署との意見交換を進めていく。
	(閉 会)